



えんだより～第13号～

令和3年1月6日

学校法人脇谷学園
静岡南幼稚園
園長 青島範明

「ピンチは、チャンス！ 新たな幼児教育をめざしての変革を！」

新年、あけましておめでとうございます。おだやかな初春をご家族で迎えたことと、お喜び申し上げます。教職員一同、子どもたちの登園を心待ちにしていました。本日、第三学期の始業式を迎え、園児たちのにこやかな笑顔を見ることで、私たちも、今年も一段階スケールアップした静岡南幼稚園づくりに向けて全力で取り組もうと、気持ちを新たにしました。

昨年度は、皆様方にとっても、私たち教職員にとっても、とても大変な年であったと思います。その要因は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令から始まり、年末にかけての第三波の到来があったことでした。

そんな状況下で、私たちは、「新たな生活様式」を求められ、多くの規制の中で窮屈なところも感じながら、様々な業界で、新たな取り組みが求められ展開をしてきました。教育の世界も例外なく、それぞれの教育機関で従来行ってきた教育手法・内容や式典・行事を見直すことで対応をしてきました。

本年に入っても、新型コロナウイルスに対する脅威は続いていますが、ポジティブに考えれば、今まで踏襲してきた事柄を、ルーチンで行ってきた古き慣習を見直すことで、これから求められる教育スタイルを考えるいい機会となったと思います。勿論、一面では「今まで行ってきた行事等が同じようにできないのは何故か。」といったようなご意見も一部の保護者の方々から頂戴しましたが、私見では、「毎年同じでは駄目。常にひとつのことを終えたら、そのことに対するPDCAをしっかりと行い、次に実行する際には、変えるべきことは変えて新しいことに挑戦する。」ということが必要であると考えます。多様性が求められるグローバル社会の中で、変革していく姿勢を持ち続けることができない組織は、生き残ることができないでしょう。

ところで、昨年12月の『静岡新聞』の第一面に興味ある見出しを見ました。

ひとつは、「私立幼稚園なぜ値上げ」。もうひとつは、「県立高校から海外大学へ国際バカロレア導入に本腰 県教委」といったものです。

前者は、保護者の皆さんにとっても切実な問題だと思いますが、そこに書かれた記事を拝見する限りでは、少なくとも保護者負担を増やした幼稚園を擁護するものとは読み取ることができないものでした。私見では、教育を受ける権利はすべての方に機会均等でなければならないと思いますが、無償化することがすべていいとは言い切れないと考えています。私の前職は、私立高等学校・中学校の世界に身を置いてきました。その世界では、公立高等学校はいち早く授業料が無償化され、私立高等学校は経費が掛かる学校のイメージがぬぐえない時期を過ごし、私立高等学校に対する逆風が吹く時代を過ごしました。しかし、現在は、静岡県の私立高等学校に通う大半の生徒たちが、公立高等学校同様無償化の対象になっていることを皆さんはご存じでしょうか。そうした状況になり、高等学校受検に関しても大きな変化が見え始めています。それは、県立高等学校の大幅な定員割れとそれに伴う私立高等学校受検希望者の増大です。

では、何故このような現象が生じるのでしょうか。私立高等学校でも一定の条件をクリアすれば、授業料が無償化になるといっても、まだその他の経費が公立高等学校に比べてかかることは言うまでもありません。でも、プラスアルファの経費が掛かったとしても、「私立高等学校の方が将来の進路に対しての期待感が持てる。」とか「私立高等学校の方が、コストパフォーマンスがいい。」といった評価から、私立が選択される時代になったことが、長年公立優位の傾向にあった静岡の地でも生まれてきたからにはほかありません。

したがって、私を取り上げた「幼稚園における経費の上乗せ」の現状についても、同様なことが言えるのではないかと思います。幼稚園は、教育の場であることが、保育園や認定こども園と決定的に違うところであり、特色を持った教育をお子さんに受けさせたいという考えであれば、コストパフォーマンスが高いと考えられるなら、無償化だけを求めるのではなく、ある程度の教育投資はすべきではないかと思います。

ところで、後者の県立高等学校のバカロレア（略称 IB）導入の問題も、これと無関係な話ではありません。

現在、静岡県内でバカロレアを高等学校で行っているところは、沼津にある私立の加藤学園暁秀高等学校の1校だけです。（静岡サレジオ幼稚園・小学校・中

学校において展開しているバカロレア教育は、現状では、16歳から19歳を対象としたディプロマ・プログラ（以下 DP と略す）には、対応はしていません。）新聞の記事にあった県立高等学校でバカロレア校を作りたいというのは、この DP に対応した高等学校を設置するといった計画となります。文部科学省は、日本において DP に対応した200校のバカロレア校を設置したいといった考えを以前から示していますが、なかなか進展しない状況にあります。この DP 教育を受けることにより、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を取り、世界中の大学に進学する道筋が広がることとなりますが、設置に関しては、多くのハードルを越えなければならないからです。

では、何故今このようなことが静岡県教育行政課題として出てきたのでしょうか。正直、バカロレア認定校になるためには、建物などのハード的な設備での投資は少ないものの、このプログラムに携われる教員養成等での財政的な問題は、大きな課題として横たわっています。でも、従来にない新たな特色ある教育を展開していくためには、金銭的な投資と踏襲されてきた教育スタイルからの脱却が必要なことは、進学人気に陰りが出始めた公立にとっては、人気が高まりつつある私立と勝負していくためには必要な事なのです。

さて、前段で、「教育の変革」の話をしていただきました。私が、本園の園長としてやらなければならないことは、本園の伝統ある教育に修正を加えながら継承しつつ、その一方で、これから求められる教育を教職員と共に、園児たちに展開していく環境を作っていくことであると認識しています。

皆さんにとって静岡南幼稚園の教育は、どのように映るでしょうか。私は、先生方との『週案』と『日案』のキャッチボールの中から、本園は、まさに今教育界で求められているスキルを伸ばすエッセンスがたくさん潜在する幼稚園だと思っています。

今の教育界のトレンドは、「認知能力」に対する「非認知能力」をどのように育成するかということにあります。本園の先生方の教育には、この「非認知能力」を伸ばしていくことがたくさん盛り込まれています。そこに、「想像性 (imagination)」と「創造性 (creativity)」の育成。これらをうまく絡み合わせることに、今後のお子さんたちの成長過程の中で、大きく力を発揮させる原点を、本園在園中につけることができると考えています。

先般、大学院時代の恩師とお話する機会があり、「先生、幼児教育の世界こ

そ、非認知能力を十分に育成する基盤ができると思いますか。」とお尋ねしたら、先生からは、「よく短期間で、そこに気付いたな。」といったお答えを頂戴しました。また、先般岐阜大学の先生と Zoom で幼児教育の重要性について情報交換をした際にも、「これからは幼児教育がキーワード。そこには、幼児期にペースとして育成したい非認知能力を、如何に教えは育むかということがポイントである。」といった結論に至りました。

私自身の本年の目標は、「ピンチは、チャンス！ 新たな幼児教育をめざしての変革を！」といった考えを根底に持ち、従来から持っている本園の伝統的な魅力的な教育スタイルに加え、このような新たな教育エッセンスを充実させるべく、本年を位置づけていきたいと思えます。

末筆となりましたが、改めまして、本年もよろしく願いいたします。

(文責 園長 青島範明)



1月の主な行事予定

- ・ 7日(木) 新年の会(予備日8日(金))
- ・ 13日(水) 年少浅間山遠足(予備日18日(月))
- ・ 14日(木) 年中日本平ハイキングコース遠足(予備日19日(火))
- ・ 15日(金) 洞慶山遠足(予備日20日(水))
徒歩通園児送迎(年長のみ全員15:30お迎え)
- ・ 16日(土) 園庭開放日
- ・ 21日(木) 満3歳児オリエンテーション
- ・ 22日(金) 年長保護者参観会
- ・ 預かり保育のできない日・・・13日(水)



2月の主な行事予定

- ・ 17日(水) 年少発表会
- ・ 18日(木) 年中発表会
- ・ 19日(金) 年長発表会
- ・ 24日(水) 年少保護者参観会
- ・ 25日(木) 年長お別れ遠足

